# ミカ書

## 第一章

一 ユダの王ヨタム、アハズおよびヒゼキヤの代にモレシテ人ミカに臨めるヨホバの言是すなはち
サマリヤとエルサレムの事につきて彼が示されたる者なり
二 萬民よ聽け地とその中の者よ耳を傾けよ主ヨホバ汝らに對ひて證を立たまはん即ち主その聖殿より之を立
三 たまふべし 視よヨホバその處より出てくだり地の高處を踏たまはん
四 山は彼の下に融け谷は裂けたり火の
五 前なる蠟のごとく坡に流るゝ水の如し 是みなヤコブの愆の故イスラエルの家の罪のゆゑなりヤコブの愆とは
六 何かサマリヤにあらずやユダの崇邱とは何かエルサレムにあらずや 是故に我サマリヤを野の石堆となし葡萄
七 を植る處と爲し又その石を谷に投おとしその基を露さん その石像はみな碎かれその獲たる價金はみな火にて
八 焚れん我その偶像をことごとく毀たん彼妓女の價金よりこれを積たれば是はまた歸りて妓女の價金となるべし
九 我これがために哭き咷ばん衣を脱ぎ裸體にて歩行ん山犬のごとくに哭き駝鳥のごとくに啼ん サマリヤ
一〇 の傷は醫すべからざる者にてすでにユダに至り我民の門ヨルサレムにまでおよべり ガテに傳ふるなかれ泣さ
一一 けぶ勿れベテレアフラにて我塵の中に輾びたり サピルに住る者よ汝ら裸になり辱を蒙りて進みゆけザアナン
一二 に住る者は敢て出ずべテエゼルの哀哭によりて汝らは立處を得ず マロテに住る者は己の幸福につきて思ひな
一三 やむ其は災禍ヨホバより出てヨルサレムの門に臨めばなり ラキシに住る者よ馬に車をつなげラキシはシオン

イ 耶二六・一八　ロ 歴一・一　ハ 申三二・一　ニ 詩五〇・七　ホ 詩一一・四　ヘ 哈二・二〇　ト 詩一一五・三　チ 申三二・一三、三三　リ 士五・五　詩九七・五　ヌ 王下一九・二五　ル 結一三・一四　ヲ 何二・五、一二　ワ 箴二一・三、二二　カ 箴二〇・二、三、四　ヨ 伯三〇・二九　詩一〇二・六　タ 王下一八・一三　箴八・七、八　レ 傳後一・二〇　ソ 耶六・二六　ツ 箴二〇・四、四七・二、三　耶一三・二二　哥三・五　ネ 歴三・六　ナ 王下一八・一四、一七　ラ 傳後八・二　王下一八・二四―一六　ム 箴一五・四四　ウ 箴一五・四四　ヰ 耶四・一九　米　四　耶四・一三　ヌ 王下一九・二五　米　二九　歴四・一三

キ代下一一・七　ノ哀四・五　オ伯一・二〇　寒一五・　二、三二・一三　耶　ク何七・六　七・二九、一六・六　ヤ詩三六・四　四七・五、四八・三七　マ創三一・二九　ケ寒五・八　フ耶八・三　コ歴五・一三　弗五・　一六　エ哈二・六　テ毋後一・一七　ア米一・一五　サ申三二・八、九　キ結二一・二　寒三〇　ユ申一二・九　一〇　歴二・一二、七・一六　メ利一八・二五、二八　耶三・二　ミ結一三・三

一四 の女の罪の根本なりイスラエルの愆は汝の中に見ゆ　一四 この故に汝モレセテガテに離別の饋物を與へよアクジブ

一五 の家々はイスラエルの王等におけること人を欺く溪川のごとくなるべし　一五 マレシヤにすめる者よ我また汝の地

一六 を獲べき者を汝に携へ往べしイスラエルの榮光アドラムに往ん　一六 汝その悅ぶところの子等の故によりて汝の髮

を剃おろせ汝の首の剃し處を大きくして鷲のごとくにせよ其は彼等擄へられて汝を離るればなり

## 第二章

一 その牀にありて不義を圖り惡事を工夫る者等には禍あるべし彼らはその手に力あるが故に天亮

二 におよべばこれを行ふ　二 彼らは田圃を貪りてこれを奪ひ家を貪りて是を取りまた人を虐げてその

三 家を掠め人を虐げてその產業をかすむ　三 是故にヱホバかく言たまふ視よ我此族にむかひて災禍を降さんと謀る

四 汝らはその頸を是より脫することと能はじまた首をあげて歩くこと能はざるべし其時は災禍の時なればなり　四 そ

の日には人汝らにつきて詩を作り悲哀の歌をもて悲哀て言ん事既にいたれり我儕は盡く滅さる彼わが民の產業

五 を人に與ふ如何なれば我よりこれを離すや我儕の田圃を違逆者に分ち與ふ　五 然ば汝らヱホバの會衆の中には

六 籤によりて繩をうつ者一人も有じ

六 預言する勿れ彼らは預言す彼らは是等の者等にむかひて預言せじ恥辱彼らを離れざるべし　七 汝ヤコブの

七 家と稱へらるゝ者よヱホバの氣短からんやヱホバの行爲是のごとくならんや我言は品行正直者の益とならざら

八 んや　八 然るに我民は近頃起りて敵となれり汝らは夫の戰爭を避て心配なく過るところの者等に就てその衣服の

九 外衣を奪ひ　九 我民の婦女をその悅ぶところの家より逐いだしその子等より我の妝飾を永く奪ふ　一〇 起て去れ是

一〇 は汝らの安息の地にあらず是は已に汚れたれば必ず汝らを滅さん其滅亡は劇かるべし　一一 人もし風に歩み謊言を

宣べ我葡萄酒と濃酒の事につきて汝に預言せんと言ことあらばその人はこの民の預言者とならん

一二　ヤコブよ我かならず汝をことごとく集へ必ずイスラエルの遺餘者を聚めん而して我之を同一に置てボツラ
一三　の羊のごとく成しめん彼らは人數衆きによりて牧場の中なる群のごとくにその聲をたてん　一三打破者かれらに先
だちて登り彼ら遂に門を打敗り之を通りて出ゆかん彼らの王その前にたちて進みヱホバその首に立たまふべし

## 第三章

一　我言ふヤコブの首領よイスラエルの家の侯伯よ汝ら聽け公義は汝らの知べきことに非ずや　二汝
二　らは善を惡み惡を好み民の身より皮を剝ぎ骨より肉を剔り　三我民の肉を食ひその皮を剝ぎその骨
三　を碎きこれを切きざみて鍋に入る物のごとくし鼎の中にいるゝ肉のごとくす　四然ば彼時に彼らヱホバに呼はる
四　ともヱホバかれらに應へたまはじ却てその時には面を彼らに隱したまはん彼らの行惡ければなり

五　我民を惑す預言者は齒にて嚙べき物を受る時は平安あらんと呼はれども何をもその口に與へざる者にむか
六　ひては戰鬪の準備をなすヱホバ彼らにつきて斯いひたまふ　六然ば汝らは夜に遭べし復異象を得じ黑暗に遭べし
七　復卜兆を得じ日はその預言者の上をはなれて沒りその上は晝も暗かるべし　七見者は愧を抱き卜者は面を赧らめ
八　皆共にその唇を掩はん神の垂應あらざればなり　八然れども我はヱホバの御靈によりて能力身に滿ち公義および
九　勇氣衷に滿ればヤコブにその愆を示しイスラエルにその罪を示すことを得

九　ヤコブの家の首領等およびイスラエルの家の牧伯等公義を惡み一切の正直事を曲る者よ汝ら之を聽け
一〇　彼らは血をもてシオンを建て不義をもてエルサレムを建つ　二その首領等は賄賂をとりて審判をなしその祭
一一

イ 米四・六、七　ロ 耶三一・一〇　ハ 結三六・三七　ニ 何三・五　ホ 箴五二・一二　ヘ 耶五・四、五　ト 詩一四・四　チ 結一一・三、七　リ 詩一八・四一 歴一・二五　ヌ 箴五六・一〇、一一　ル 米二・一一　カ 歴八・九　ヨ 詩七四・九　歴八・一一　タ 箴五八・一　レ 耶二二・一三　ソ 結二二・二七　ツ 箴一・二三　ネ 耶六・一三　ナ 箴四八・二　ラ 耶二六・一八　ム 詩七九・一　ウ 米四・二　ヲ 結一三・一八、一九　ワ 箴八・二〇、二二　カ 結一三・一〇、二二　ヨ 詩一一・二二　タ 箴五八・一　レ 米七・三　ソ 結二二・一七　ツ 箴一・二三　ネ 耶六・一三　ナ 箴四八・二　ラ 耶二六・一八　ム 詩七九・一　ウ 米四・二

サ 箴一三・八、二一・三 耶三〇・六、五〇・四三

ヤ 耶二・一一 マ 詩一〇・一二 ケ 結三四・一六 番

一二　彼處にて汝の敵の手より贖ひ取り給ふべし　二　今許多の國民あつまりて汝におしよせて言ふ願くはシオンの汚さ
一三　れんことを我ら目にシオンを觀てなぐさまんと　一三　然ながら彼らはヱホバの思念を知ずまたその御謀議を曉らず
一四　ヱホバ麥束を打場にあつむるごとくに彼らを聚め給へり　シオンの女よ起てこなせ我なんぢの角を鐵にし汝の
蹄を銅にせん汝許多の國民を打碎くべし汝かれらの掠取物をヱホバに獻げ彼らの財産を全地の主に奉納べし

## 第五章

一　軍隊の女よ今なんぢ集りて隊をつくれ敵われらを攻圍み杖をもてイスラエルの士師の頰を擊つ
二　ベテレヘム、エフラタ汝はユダの郡中にて小き者なり然れどもイスラエルの君となる者汝の
三　中より我ために出べしその出る事は古昔より永遠の日よりなり　三　是故に産婦の産おとすまで彼等を付しおきた
四　まはん然る後その遺れる兄弟イスラエルの子孫とともに歸るべし　四　彼はヱホバの力に由りその神ヱホバの名の
五　威光によりて立てその群を牧ひ之をして安然に居しめん今彼は大なる者となりて地の極にまでおよばん　五　彼は
平和なりアッスリヤ人われらの國に入り我らの宮殿を踏あらさんとする時は我儕七人の牧者八人の人君を立てこ
六　れに當らん　六　彼ら劍をもてアッスリヤの地をほろぼしニムロデの地の邑々をほろぼさんアッスリヤの人我らの
七　地に攻いり我らの境を踏あらす時には彼その手より我らを救はん　七　ヤコブの遺餘者は衆多の民の中に在こと人
八　に賴ず世の人を俟ずしてヱホバより降る露の如く青草の上にふりしく雨の如くならん　八　ヤコブの遺餘者の國々
九　にをり衆多の民の中にをる樣は林の獸の中に獅子の居るごとく羊の群の中に猛き獅子の居るごとくならんその過
るときは踏みかつ裂ことをなす救ふ者なし　九　望らくは汝の手汝が諸の敵の上にあげられ汝がもろもろの仇
ことごとく絶れんことを

イ哀二・一六　耶五一・三三　ヘ伽二・四四　チ詩一八・六、一〇　ト箴一八・七、一八、六〇・六、九　ヌ太二・六　約七・四二　ル出一八・二五　ヲ申前二三・二三　ワ創四九・一〇　箴九・三三　カ詩九〇・二　箴八・二二、二三　約一・一　ヨ米四・一〇　タ米四・七　レ箴四〇・一一、四九・一〇　結三四・二三　ミ米五五・八　羅一一　ホ箴四一・一五、一六　ヘ伽二・四　ト箴一八・七、二三・六　リ哀三・三〇　太五・

米七・一四　ソ詩七二・八　寒五二・二三　亞九・一〇　路一・三二　ツ詩七二・七　羅九・六　亞九・一〇　路二・　一四　弗二・一四　ネ創一〇・八、一〇、一一　ナ路一・七一　ラ米五・三　ム申三二・二　詩七二　・六、一一〇・三　ウ亞九・一〇　キ寒二・六　ノ亞一三・二　オ寒二・八　ク詩一四九・七　米五　・八　撒後一・八　ヤ何一二・二　マ申三二・一　詩五〇・二、四　寒一・二　ケ寒一・一八、五・三、四、四三・二六　何　四・一　フ耶二・五、三一　コ出一二・五一、一四・三〇、二〇・二　エ民二二・五、二三・七、二四・一〇、一一　申二三・四、五　箴二四・九、一〇　默二　サ詩五〇・九、五一・一六　寒一・一一　テ民二五・一、三三・四九　箴四・一九、五・一〇　ア士五・一一　サ詩五〇・九、五一・一六　寒一・一一　キ伯二九・六　ユ王下一六・三、二一・六、二三・一〇　耶　七・三一、一九・五　結二三・三七　メ申一〇・一二　一五・二二　一二・六　何六・　ミ創一八・一九　寒一・二七

一〇　ヱホバ言たまふ其日には我なんぢの馬を汝の中より絶ち汝の車を毀ち　一一　汝の國の邑々を絶し汝の一切の城をことごとく圮さん　一二　我また汝の手より魔術を絶ん汝の中にト筮師無にいたるべし　一三　我なんぢの彫像および柱像を汝の中より絶ん汝の手にて作れる者を汝重て拜むこと無るべし　一四　我また汝のアシラ像を汝の中より拔たふし汝の邑々を滅さん　一五　而して我忿怒と憤恨をもてその聽從はざる國民に仇を報いん

## 第六章

一　請ふ汝らヱホバの宣まふところを聽け汝起あがりて山の前に辯爭へ岡に汝の聲を聽しめよ　二　山よ地の易ることなき基よ汝らヱホバの辯爭を聽けヱホバその民と辯爭を爲しイスラエルと論ぜん　三　我民よ我何を汝になしゝや何において汝を疲勞たるや我にむかひて證せよ　四　我はエジプトの國より汝を導きのぼり奴隷の家より汝を贖ひいだしモーセ、アロンおよびミリアムを遣して汝に先だたしめたり　五　我民よ請ふモアブの王バラクが謀りし事およびベオルの子バラムがこれに應へし事を念ひシッテムよりギルガルにいたるまでの事等を念へ然らば汝ヱホバの正義を知ん　六　我ヱホバの前に何をもちゆきて高き神を拜せん燔祭の物および當歲の犢をもてその御前にいたるべきか　七　ヱホバ數千の牡羊萬流の油を悅びたまはんか我愆のためにわが長子を獻げんか我靈魂の罪のために我身の產を獻げんか　八　人よ彼さきに善事の何なるを汝に告たりヱホバの汝に要めたまふ事は唯正義を行ひ憐憫を愛し謙遜りて汝の神とともに步む事ならずや　九　ヱホバの聲邑にむかひて呼はる智慧ある者はなんぢの名を仰がん汝ら笞杖および之をおくらんと定めし者

一〇 に聽け　一〇 惡人の家に猶惡財ありや詛ふべき縮小たる升ありや　二 我もし正からざる權衡を用ひ袋に偽の碼子
一二 をいれおかば爭で潔からんや　一三 その富る人は強暴にて充ち其居民は謊言を言ひその舌は口の中にて欺くことを
一三 爲す　一三 是をもて我も汝を擊て重傷を負はせ汝の罪のために汝を滅す　一四 汝は食ふとも飽ず腹はつねに空ならん
一四 汝は移すともつひに拯ふことを得じ汝が拯ひし者は我これを劍に付すべし　一五 汝は種播とも刈ることあらず橄欖
一五 を踐ともその油を身に抹ることあらず葡萄を踐ともその酒を飲ことあらじ　一六 汝らはオムリの法度を守りアハブ
一六 の家の一切の行爲を行ひて彼等の謀計に遵ふ是は我をして汝を荒さしめ且その居民を胡盧となさしめんが爲なり
汝らはわが民の恥辱を任べし

## 第七章

一 我は禍なるかな我の景況は夏の菓物を採る時のごとく遺れる葡萄を斂むる時に似たり食ふべき
二 葡萄あることと無く我が心に嗜む初結の無花果あること無し　二 善人地に絶ゆ人の中に直き者なし皆
三 血を流さんと伏て伺ひ各々網をもてその兄弟を獵る　三 兩手は惡を善なすに急がし牧伯は要求め裁判人は賄賂を
四 取り力ある人はその心の惡き望を言あらはし斯共にその惡をあざなひ合す　四 彼らの最も善き者も荊棘のごとく
五 最も直き者も刺ある樹の垣より惡し汝の觀望人の日すなはち汝の刑罰の日いたる彼らの中に今混亂あらん　五 汝
六 ら伴侶を信ずる勿れ朋友を恃むなかれ汝の懷に寢る者にむかひても汝の口の戸を守れ　六 男子は父を藐視め
七 女子は母に背き媳は姑に背かん人の敵はその家の者なるべし
七 我はヨホバを仰ぎ望み我を救ふ神を望み俟つ我神われに聽たまふべし　八 我敵人よ我につきて喜ぶなかれ

イ 中二五・一三―一六　ニ 耶九・二六、五、六、八　ト 申二八・三八、三九、　リ 何五・一一　カ 箴二八・四　何九・　レ 何四・一八　ネ 耶九・四
箴一一・一、二〇・　ホ 利二六・一六　詩一　四〇 歴五・一一番　ヌ 王上一六・三〇、　ソ 箴一・二三　米三・　ナ 結二二・七　太一〇・
一〇、二三　一・一三　基一・六　二一・二五、二六　王　ヲ 箴二五・八　耶五一　一〇　ヨ 詩一二・一、一四・　一一　二一、三五、三六　路
ロ 歴八・五　ヘ 利二六・二六　何四　チ 王上一六・二五、　ワ 箴一七・六、二四・　五・一　哀五・一　一、三　箴五七・一　ツ 母後二三・六、七　結　一二・五、一二・
ハ 何一二・七　二六　一三　下二一・三　タ 哈一・一五　二・六　箴五五・一三　一六　提後三・二、三
ル 王上九・八　耶一九

ラ 箴八・一七　ム 哀二四・一七　哀四・二一　ウ 詩三七・二四　哀二四・二六　牛 詩二七・一　ノ 哀三・三九　オ 詩三七・六　ク 詩四二・三、一〇、一一五　哀　ヤ 詩三五・二六　マ 米四・一一　ケ 伝後二二・四三　哀　フ 歴九・一一　コ 箴一一・一六、一九　二三、二七・一三　ア 詩二八・九　米五・四　サ 詩六八・二二、七八・二二　何一一・一一　エ 耶二一・一四　米三　テ 箴三七・二四　ユ 伯二一・五、二九・九　メ 詩七二・九　箴四九・二三　ミ 詩一八・四五　キ 箴二六・一一　シ 耶三三・九　ヱ 出一五・一一　ヒ 出三四・六、七　五〇・二〇　モ 米四・七、五・三、七、　セ 詩一〇三・九　箴五七・一六　耶三・五　ス 詩一〇五・九、一〇　イ 路一・七二、七三　八

九　我仆るれば興あがる幽暗に居ればヱホバ我の光となりたまふ　九　ヱホバわが訴訟を理し我ために審判をおこなひ
たまふまで我は忍びてその忿怒をかうむらん其は我これに罪を得たればなりヱホバつひに我を光明に携へいだし
一〇　給はん而して我ヱホバの正義を見ん　一〇　わが敵これを見ん汝の神ヱホバは何處にをるやと我に言る者恥辱をかう
一一　むらん我かれを目に見るべし彼は街衢の泥のごとくに踏つけらるべし　一一　汝の垣を築く日いたらん其日には法度
一二　遠く徙るべし　一二　その日にはアッスリヤよりエジプトの邑々より人々汝に來りエジプトより河まで海より海まで
一三　山より山までの人々汝に來り就ん　一三　その日地はその居民の故によりて荒はつべし是その行爲の果報なり
一四　汝の杖をもて汝の民即ち獨離れてカルメルの中の林にをる汝の產業の羊を牧養ひ之をして古昔の日のご
一五　とくバシャンおよびギレアデにおいて草を食はしめたまへ　一五　汝がエジプトの國より出來し日のごとく我ふしぎ
一六　なる事等を彼にしめさん　一六　國々の民見てその一切の能力を恥ぢその手を口にあてんその耳は聾となるべし
一七　彼らは蛇のごとくに塵を舐め地に匍ふ者のごとくにその城より振ひて出で戰慄て我らの神ヱホバに詣り汝の
ために懼れん

一八　何の神か汝に如ん汝は罪を赦しその產業の遺餘者の愆を見過したまふなり神は憐憫を悅ぶが故にその震怒
一九　を永く保ちたまはず　一九　ふたゝび顧みて我らを憐み我らの愆を踏つけ我らの諸の罪を海の底に投しづめたまはん
二〇　汝古昔の日われらの先祖に誓ひたりし其眞實をヤコブに賜ひ憐憫をアブラハムに賜はん